土壌くん蒸剤

農林水産省登録
第21220号

クロピクフロー

有効成分：クロルピクリン（PRTR・1種）…80%（トリクロロニトロメタン）　性状：淡黄色澄明油状液体　毒性：医薬用外劇物

灌水チューブで処理する、クロルピクリンです!!

- 被覆後に薬剤を施用するため、処理時の刺激が少ない。
- 灌水装置で処理するため、作業が簡単。
- 従来のクロルピクリンと同様、安定した効果を発揮。
- いちごの高設栽培でも使用できます。
  （ラベルをよく読んで正しくお使いください）
- 前作の古株枯死やコナジラミ類蔓延防止の、対象となる前作の作物の種類が増えました（下表※）。

灌水チューブとクロピクフローの組み合わせで、新たな特長が生まれました!

■適用病害虫および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量（ℓ/10a）	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数
かぶ	萎黄病	20～30	1回	耕起整地後、灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	1回
	ネコブセンチュウ	30			
トマト、ミニトマト	萎凋病、ネコブセンチュウ	20～30			3回以内（床土1回以内、圃場2回以内）
いちご	萎黄病				
	ネグサレセンチュウ	20			
	ネコブセンチュウ	30			
なす	半枯病、青枯病	20～30			2回以内（床土1回以内）
ピーマン、とうがらし類	青枯病、萎凋病				3回以内（床土1回以内、圃場2回以内）
	ネコブセンチュウ	30			
ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ	萎凋病	20～30			2回以内（床土1回以内）
	ネコブセンチュウ	30			
きゅうり、すいか	つる割病	20～30			3回以内（床土1回以内、圃場2回以内）
	ネコブセンチュウ、ホモプシス根腐病	30			
うり類（漬物用、ただし漬物用メロンを除く）	つる割病	20～30			
	ネコブセンチュウ	30			
にがうり	つる割病	20～30			2回以内（床土1回以内）
	ネコブセンチュウ	30			
さやいんげん	萎凋病	20～30			3回以内（床土1回以内、圃場2回以内）
	ネコブセンチュウ	30			
さやえんどう、実えんどう	根腐病	20～30			2回以内（床土1回以内）
	ネコブセンチュウ	30			
しょうが、葉しょうが、みょうが（花穂）、みょうが（茎葉）	根茎腐敗病	20～30			
こまつな	萎黄病				
アスパラガス	立枯病				
	ネコブセンチュウ	30			
にら	乾腐病	20～30			
ねぎ	萎凋病、根腐萎凋病				3回以内（床土1回以内、圃場2回以内）
	ネコブセンチュウ	30			
パセリ	立枯病	20～30			1回
	ネコブセンチュウ	30			
セルリー	萎黄病	20～30			3回以内（床土1回以内、圃場2回以内）
	ネコブセンチュウ	30			
きく	ネグサレセンチュウ、ネコブセンチュウ、萎凋病				
花き類・観葉植物（きくを除く）	ネコブセンチュウ、フザリウム菌による以下の病害（萎黄病、萎凋病、株枯病、乾腐病、球根腐敗病、立枯病、葉枯病、腐敗病）				

作物名	使用目的※	使用量（ℓ/10a）	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロルピクリンを含む農薬の総使用回数
トマト、ミニトマト、いちご、ピーマン、とうがらし類、きゅうり、すいか、うり類（漬物用、ただし、漬物用メロンを除く）、さやいんげん、ねぎ、セルリー、花き類・観葉植物	前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類（漬物用、ただし、漬物用メロンを除く）、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが（花穂）、みょうが（茎葉）、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の古株枯死、コナジラミ類蔓延防止	20	前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類（漬物用、ただし、漬物用メロンを除く）、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが（花穂）、みょうが（茎葉）、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物の収穫終了後古株撤去前まで	1回	灌水チューブを設置し、その上からポリエチレン等で被覆する。その後、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理する。	3回以内（床土1回以内、圃場2回以内）
なす、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、にがうり、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが（花穂）、みょうが（茎葉）、こまつな、アスパラガス、にら						2回以内（床土1回以内）

クロピクフローの使用方法

（うね立て後の処理の例）

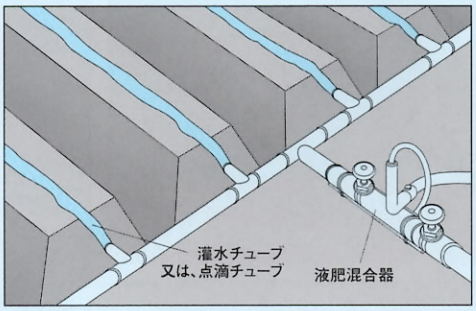
うね立て後の処理は、土壌消毒後に土を動かさない、うねの側面からもクロルピクリンガスが土壌中に拡散するなどの理由で、より安定した効果が期待できます。

①圃場の準備

前作の残渣を取り除き、深く耕し、整地を十分に行ない、うねを立てます。

②灌水装置の設置

灌水チューブ又は点滴チューブを液肥混合器と接続し、吐出口を上にして、うねの上に設置します。



③水漏れチェック

灌水装置に水を流し、接続部等の水漏れをチェックし、灌水チューブ、点滴チューブから水が均一に出るように水圧を調節します。

④液肥混合器による注入量の調節

処理面積の大小にかかわらず、クロピクフロー処理が、
・灌水チューブの場合は15分
・点滴チューブの場合は30分
で終了するように調節します。
1回で処理できる面積の目安は、通常の灌水が1回でできる面積です。

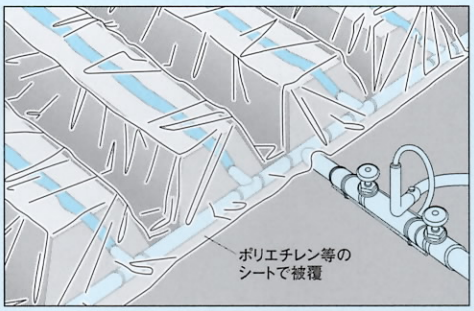
※灌水設備のろ過フィルターや電磁弁には、クロピクフローを通さないでください。

クロピクフロー吸入速度の例（20～30ℓ／10a処理の場合）

処理面積	吸入速度（ℓ／分）	
	灌水チューブ	点滴チューブ
5a	1	0.5
10a	2	1

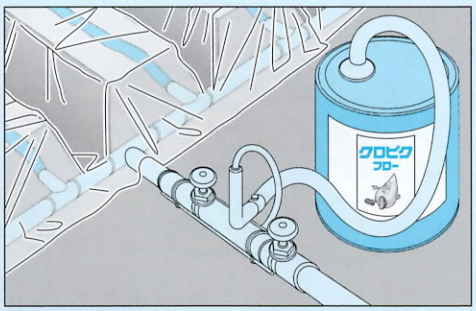
⑤被覆

灌水装置の水を止め、ポリエチレンシート（厚さ0.05mm以上）で圃場を被覆し、周囲をしっかりとおさえます。周囲のおさえには水枕等を使用します。土でおさえることは避けた方が安定した効果が期待できます。



⑥クロピクフローの処理

保護具を着用し、液肥混合器に薬剤をセットし、あらかじめ調節した水圧で薬剤を注入します。薬剤の注入が終了した後も、灌水チューブ又は点滴チューブの先端から出る水が透明になるまで水を流します。この時、液肥混合器も薬剤と同量の水を吸入させて、本体とコックをよく洗浄します。



⑦灌水設備の洗浄

定植するまでの被覆期間中に2～3回、5～10分ずつ通水し、灌水チューブ、パイプ等を洗浄します。

⑧くん蒸期間と播種・定植の準備

播種・定植前に圃場の数か所を掘り、臭気がないことを確認します。臭気が残っている場合には、さらに期間を置いてください。クロピクフローの処理に使用した灌水設備を灌水に使用する場合には、薬剤の臭いがしないことを確認し、使用してください。標準的なくん蒸期間は下表の通りですが、土壌の種類、土壌水分等により異なることがあります。十分な余裕を持って処理してください。

標準的なくん蒸期間

平均地温（℃）	25～30	15～25	10～15	7～10
くん蒸期間（日）	約10	10～15	15～20	20～30

⚠使用上の注意事項

●温度が低いと本剤のガス化が悪く、十分な効果が得られないこともあるので、なるべく地温が7℃以上の時に使用してください。

●本剤の処理に当たっては、作物の播種・植付け前にガスが土壌中に十分拡散するように耕起、砕土を十分に行い、丁寧に整地してから灌水チューブを設置してください。その上からポリエチレン等で被覆し、液肥混合器等を使用し、本剤を処理用の水に混入させ処理してください。

●本剤の処理液が直接処理圃場より漏出しないように注意してください。

●高設栽培等架台上の培地に使用する場合、薬剤がベッドの下部等から散逸しないように、ポリエチレン、ビニール等で施設床面まで被覆してください。また、薬剤を処理する際に、ポリエチレン、ビニール等を伝わって、栽培槽から漏出しないように注意してください。

●地温が15℃以上の時は処理後10日位、また、地温が低い時は処理後20～30日経過するとガスは大体抜けますが、念のためくわを入れ、土質、気温等により、なお臭気が残っている時は、よく切り返し、完全にガス抜きを行ってから、播種あるいは移植してください。うり類は本剤のガスに弱いので、ガス抜きは特に丁寧に行うよう注意してください。

●古株枯死、コナジラミ類の蔓延防止に使用する場合、前作のトマト、ミニトマト、いちご、なす、ピーマン、とうがらし類、ほうれんそう、ごぼう、いんげんまめ、きゅうり、すいか、うり類（漬物用、ただし、漬物用メロンを除く）、にがうり、さやいんげん、さやえんどう、実えんどう、しょうが、葉しょうが、みょうが（花穂）、みょうが（茎葉）、こまつな、アスパラガス、にら、ねぎ、セルリーまたは花き類・観葉植物に処理し、被覆期間については以下を目安としてください。また、ハウス等からクロルピクリンの臭気が漏洩しないように、十分注意してください。
①地温が15℃以上の時は処理後10日位
②地温が低い時は処理後20～30日位

●作物の生育中には薬害を生じるので使用しないでください。隣接地に生育中の作物がある場合には、揮散ガスによる薬害に注意してください。特に、生育中の作物があるハウス内では使用しないでください。

●消石灰などのアルカリ性肥料の施用直後に本剤を処理すると作物に有毒な物質を作り、薬害の発生するおそれがあるので、このような肥料はガス抜き後に施用するか、または本剤処理の10日以上前に施用してください。

●他剤と混合しないでください。特にカーバム剤およびカーバムナトリウム剤とは化学反応により、発熱し危険ですので、カーバム剤およびカーバムナトリウム剤使用後の散布器具等はよく洗浄してから用いてください。

●金属腐食性がありますので、使用後の注入器具その他は水でよく洗ってください。

●薬液の入っている製品缶に水が混入すると缶が腐食するおそれがありますので、製品缶には水を入れないでください。

●薬液タンク（ポリタンク等）に移した薬液は水分を含んでいる可能性があり、製品缶を腐食するおそれがありますので、残存薬液は製品缶に戻さず、使い切ってください。

●ミツバチの巣箱周辺では使用をさけてください。

●処理後の放置期間と効果・薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、土壌水分、作物の種類によって一様ではないので、本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意してください。特に、初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

○使い終った缶は、逆さまにして周囲に影響のない圃場に臭いが抜けるまで立てておいてください。その後、危険のない場所で処理してください。○使用前にはラベルをよく読んでください。
○ラベルの記載以外には使用しないでください。○本剤は小児の手の届くところには置かないでください。

この印刷物は平成30年2月現在の登録に準拠して作成しました。

日本化薬株式会社
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号（明治安田生命ビル）
TEL.03-6731-5321　FAX.050-3730-7867

1802Z　DPCPFL010